しかし、あの人は、僕を年下の男の子として
普通に扱っていて、僕が見ていても平気だった。
無理もない話だ。

幹夫が生まれた頃、僕がまだ小学校三、四年の頃は、
僕はお母ちゃんに連れられよく近所の銭湯へ行った。
お母ちゃんが自分の体を洗う時、幹夫の面倒見るためだった。
あの人も、時々、銭湯で一緒になって、
幹夫と三人、仲良く、湯船に入っていた。

あの時は片思いだったが、今度もそうなるのだろうか。
しかし、今度は、あの子は中学三年で、僕と同じだ。
前より可能性はある。

どの程度あるのかは、わからないが、
前と違って、すなおに僕の気持ちを示せる気がする。

僕の情熱がどのくらいあるか。
「好きだ。」と言ったとしたら、
まじめに僕を見てくれるだろうか。
僕を好いてくれるだろうか。
話す機会を作るのは前とは段ちがいに難しいが。

今は、だいぶ、女性という対象、存在が気になる年頃になった。
僕の理想女性は、本当なら、今の中一から
小学校六年にあるはずなのに、変なもんだなあ。
書いてて、少々、はずかしい。